



俳諧
享保壬子年
綾錦卷

法涼齋





邈兮往古無_二誹諧宗匠者_一
 唯有_三連_一誨宗匠_二漆_一削_二誹諧_一
 而已自_三慶_一長_一中_一花_一咲_一翁_一蒙_二
 誹林_一道_一之_一宗_一匠_一免_一許_一以_一
 來_カ海_一內_一靡_ヒ然_ト爲_ニ之_一誹_一林_一權_ハ

那倉文庫

興矣自是以來其源洪トク其流蕩トク逢トク此道以爲宗
匠者如トク潮涌如トク流漫トク連者
幽トク玄トク誹者寬トク濶捨其屈トク樂
其伸トク一人之心追トク萬人而
後者時トク勢使トク之トク然トク耳遂トク有トク
宗匠出トク連トク而入トク誹者混トク

汰トク不可トク辯識焉猶有東
都トク下トク點者影トク其澹トク區トク不
分明矣因トク是トク遠トク以トク古書爲
力トク中トク蹲トク踞トク老トク誹之前トク拂トク其
鼻上之塵トク追トク任トク其所トク知トク覺トク
各トク選トク我トク持トク量トク次第トク猶
蜘蛛之トク纏トク糸トク綾トク錦之トク分トク縷トク

以爲此書題號云尔
享保壬子夏日武阳江都
神田散人崔下菴沾涼叙



綴錦卷之上

沾涼緝

○元來建歌と俳諧、別々の物にありと古の
連歌今の俳諧混合して其差別あり建歌舊式
應安新式より建歌の法より海のみよりあり
云々とす一々如事と俗言此海に云々
狂連歌と云へば其れは中世より云々俳諧歌の
云々として建歌と俳諧連歌と名付るあり
真連歌 今建歌 狂連歌 今俳諧
○俳諧俳諧乃云々あり云々海去より海くみ論
を記すあり云々と八雲抄抄九品あり云々

○連歌舊式目 人皇九十九代後宇多院御宇建治二年
後倉原谷鳥相卿の作 是乃大道と云

○同新式目 人皇九十九代後光嚴院應安五年

二条禅園後常光園殿下 書加玉 是乃小道と云

○新式追加 人皇百三代後花園院享徳元年

一条殿下 白蓋良云時の宗道に誌し 書加玉

○新式今案 人皇百六代後柏原院文龜元年 肖拍 辨花

勅と信く 道遙院殿下 実隆云合辨し 書加玉

○北野連歌 出葉元祖ハ梵灯菴也 未社煙宮北身云

誹諧根元の書ハ新式と大規矩に 松永貞徳

即筆と編ハ其後野ハ立圃の 中ノ事松永貞徳

乃毛吹草北村法印の撰本也

○連誹乃神ハ天満宮と崇む事ハ北野宮老人と化

二條殿下ハ其也也ハ立水外水の書と云梵灯菴至

下校と云ハ 一と云ハ 小聖連弁も立水の出葉と

梵灯より交信と云ハ 禪言乃教筆の書ハ 神殿に納

連歌の神辨ハ立水外水ハ 是天満宮御雙眼と

ハ 此流ハ連弁同辨なると云ハ 天満宮と崇

性古連弁の神ハ日本武尊と崇し

○應安乃頃普光園殿下より侍云ハ 宗通と云ハ

大比賣書秘笈ハ 傳新在家に 了今代ハ 連

歌ハ 電鏡と云ハ

○應永乃頃江州石山寺御會

二條殿下普光園殿

月ハ山月と一重に信の海 良基公

山浪さびる東も文多様 周阿

松一本あゝぬ 萬葉のあはれん 侍公

此時ゆふゆと宗道とゆる一座の好吉

救済 善阿 光順
信強 良阿 篤之

○慶長の頃清水金閣殿御會

九條殿下号致山公

花子粉乃を流しん 流末の如 魚孝公

老ハ案子ひよるゆる袖 玄旨

たつとらふ裾ぬき 稚子鳴す 貞徳

此の貞徳如く宗道とゆる一座の好吉

宗頼 宗徳
紹巴 永種 等

山月を腰にささる扇の如

三條西三光院殿

實澄

山月の宗徳如く宗道とゆる一座の好吉

此の望むを宗道とゆる一座の好吉

近衛殿下号龍出

宗徳、ととると宗道とゆる一座の好吉 前久公

音んとととれと暮乃次有 宗徳

智くともとゆるゆる花香く 玄旨

ま、明を侍 月ハ主人丸 貞徳

御菓子のおこを

馬九亞相

報く乃終なり涼一 枇杷の枝 光廣御

太閤朝鮮出陣の時

二位

かきらのその身はゆるとよく外 法印玄旨

こゝめも柳汁乃は月こめ出らるる
五月雨の峰のす川之勢谷の水
秋とて地今い山田のい絲とて也
冬に粒素良のさしひく胡茶外
宗祇
侍公
周阿
救斎

宗祇母方の席へ守武出たわらひ
乃重も法師のいかなるこ
おなを又とてる重も守武
ひらりーいさのうら忍ほーい
宗祇
守武
宗祇

あふくひの白 名あふくー
そらとて也雨の望北秋乃と
きしとてぬのか母ぢらとて森ぬ東が
とみとては蘇やささくかめさ
牡丹花
肖拍
宗長
仙吟

柳心とての蒼とてとていふ字外
ひらりとての菊の之とて南禅寺
とていふ字とては蘇の死とて
とてはらりて花とて蘇あるとて根外
柳乃くお香なしく写とて筆もさう如
ぬる雪をさくをいさるあはれ下込
さるる雪あけくさる也かぶさく
那へや木乃丸はたの青とて株
雪折い川切竹や胡茶の湯
さそいさるる雪のあはれ鼻足餅
此のあらしとて見あらしとて記す
源中
元政
松花堂
照業
宗鑑
宗艱
紹巴
紹純
高野木食
楚仙大
肖拍子
慶友
小堀
宗甫
羅山
道春

○誹諧宗匠權輿

雪月花一度に見るるらんさる如

貞徳

○^京貞門七誹仙

海棠花のやまやまのふかしの花
君つまも茶は成りて人乃道
大上戸かこしにある、行いさう子
神堀の邊、折葉のほろろ
さうたしぬらふのゆきをほろろ
さう節をよらうやあふ系はさ
花生、乃水多たもあさくもけ

立圃 維舟 西武 令徳 貞室 季吟 梅盛

○江戸五誹哲

何と見ても雪はしあき物さ
ねふー蚕て福さぬ伽子炭火外
さあー得達如人丸既中、如
上を下へえいさうふ乃つれ見、如
去とんと空やゆいゆいさうら

徳元 未得 玄札 加友 卜粮

○万治寛文頃

既寒足移つて色は雪乃道
多んさく印撰弁、あさぬ
川着のー守り亭や屋敷船
雪菊やあさなれ時の福在子

^{蝶子}貞宣 ^{松永}立志 未琢 卜入

哥くびく印のめまの子月外

調和

え源の登龍のまきよま履もあはして

同

死い月らまきしらもも禮草

不卜

え源のそのあらわれ於命さしひらく

同

よみあのをたくもあまの時の音

畧俊

又あるハ死のまんだんや寺始死

尊明

月こしらゆるある一や之ケ日

友徳

回文宿めたららたららと驚の心

水元

待まさしぬ人の心や死つら

清春

じやらくむじやらに吟る青山林

吟市

此句ハ栗本雪朝子正物の源字ニあり

雪この心やらくの心の心の心の

一貞

雪おやむしらぬ心の心乃昔

松意

死を少くあらぬ心の心乃昔

幽山

○元祿始ヨリ享保年中

名乃つらぬ心の心乃昔

湖春

何れに指て 心の心の心の

何の心の心の心の心の心の

芭蕉

此等ハ雪川源西翁中川文翁ハ遠く今歳年ハのりあり

西風乃後乃心の心乃昔

素堂

名乃つらぬ心の心乃昔

似春

いらぬ心の心乃昔

露言

はくしつを撰を坐を乃技折抄
雅なりて舟なりしを九月
年ありて身出るといふ時外
とつものや青とくくぬ芝乃 隅
花出らう子とあるとく夫婦外
河の子や児の業とくくうし
多し海も舟も眠るや去乃 兩
炭と移る物とくくく人 心
色とくくくもぬるるとくく
水とぬと金とくく物や夕涼
抽乃花のよの才の其句節

兼豊
山夕
一晶
神階堂 立志
其角
嵐雪
太白堂 挑翁
一蜂
無倫
沾德
介我

小男のくくくけぬくくく
家とくくくくくくくく
くくくくくくくくくく
入右乃鏡とくくくくく
我形やくくくくくく
寺とくくくくくくく
心とくくくくくくく
川筋やくくくくくく
碓川網とくくくくく
捨石を雪のくくく
まかり乃笠のくくく

秀和
東潮
遠水
正友
神叔
素秋
未陌
常陽
立嘴
好柳
松水

子英

新田にありてはくなくも 栗の葉 立志
雲は雪を花をあふらしきよの月 和英
袖下のあふるはたふの流し 浮生

此の奥別領賀川等初撰一本戸を合りて
頃いふなるも子英如入せざるに
加ふ子英たるもいふに
おのゝ香歌すそのら等初撰をさして
今いふも人も我も亡して
書の張ゆていふもいふとあふ
その二つ心の序子平ありあひて
厚くは書初は雅を合つて
けるを指し

新田にならなくも 中しく河下 拳白
死ぬすくは生れたるも 蝶子息 二葉
此の歳且の葉は身しは物わるはくは酒けのり

花根をさく志の心ままほや時多 堤亭
くすものみ柳子のゆきたり 芥鉄
葉下りく流つるなるん 秋色
原より子に髪なすく 女との女
くし鯛の物あふる 旬 佳風
見とや目を志いし 前 青娥
何を去 船ととも 初時西 其谷
右ハ介又あつるもいふもいふも 約

上

上

○寛永頃京大坂宗匠大概

苗采なきく浦志あなまよ深の雪	本多あつと縁や根立ほくさ	廿日子婿入死三七と如しに星	七賢の極せん花や一敷椿	まじりても雪女もや白くも	せんくたつたふ乃月もさゆい	三夕もさるや中乃乃きいひ林	松の友蛸あま光きくあり	撞花一ふつと志海あさり	綿くひもみらみれくせく
安静	一雪	定重	宗伴	道篤	正由	元隣	宗因	空存	休甫

連歌花下 新在家代

ひさしの一口ゆやあか子	風とよく奈良風よされぬ藤の如	蚊のあつとせいの如く夏ゆき	ゆき乃系をそある、ゆき
日 玖	日 春倫	天王寺 道寸	堺 成安

侍公 宗匠権輿トス 又権輿宗匠云但同人欲難知入其門尚可尋

心敬 僧都 専順 智温 在外部 踏川新着 應永頃

在外 宗匠 杉原加賀守 能阿 法師 専順 續 行助 法師

宗祇

法師 文明頃

不審奇 見外奇 自然奇
種玉菴ト云文龜二七月卒

魚裁 文明頃

專碩 文明頃

宗牧 永祿頃

宗粮 慶長頃

宗長 右同頃

周桂 右同

貞德

肖拍 牡丹花
文龜頃

永仙 右同頃

長子 慶友 温野ト粮ト云

半井ト粮ノ父也
代在慶友又ト粮ト云

紹巴 右同
當時宗匠祖

昌休 右同
當時宗匠祖

誹道大五譜 他國大略

新在家付公十代宗匠宗粮門

貞德

松永道遙軒長頭九 吟花齋 号苍咲翁

慈父松永永種

撰州高槻城主松永霜臺嫡孫

悲母下冷泉歿壽院御妹 元龜二生推名勝熊

勝熊ノ声ヲカリテ道遊軒ト云説アリ

哥道ハ法印玄音ノ門弟 慶長三戌八月

近衛殿下龍山公 九條殿下玖山公ヨリ法印玄音

法橋宗粮法服紹巴等ニ仰有テ誹譜一道ノ

宗匠ヲ免許

兼應二癸巳卒春秋八十三松永明心居士

有墳鳥羽寶相寺

編集

和歌宝珠二十卷

歌林撰擧二十八卷

戴恩記 西傘 紅梅子白 浚川油粕

長子 昌三 松永 儒道

一切經八千紙書

長子 昌易 春秋館 儒道

季子 永三 懷德堂 儒道

誹門人 道春 林家儒宗 羅山子

御儒學所

道春昌三兩人ヲ貞德道而入門惺窩先生

羅山子長男

春齊 御儒學 本朝通鑑書

御曲家 三竹 野間

順菴 木下

隨有 滝川

省菴 安藤

由的 宇都宮

哥道門人

盤齊 如藤

一華堂

長好 廣沢

三之

儒宗家

貞門七誹仙

一流祖

①立圃

京 編集

寛文頃卒享年七十有余 野口親重入道 号松翁

七の誹仙 誹万景 初月子白 誹河舟 其の誹 小所をり 忍の誹 戸輪車 沢をいふ 約よ也 大吟 空つて折 江戸集 二二二二 老為子白 執法集 苦恨集 老為子白 老為子白

一流祖

②維舟

京

松江重頼入道

右同頃 卒行年七十四

京

③幸和

編 江崎

和年

常辰 年七

重栄 竹山

編 短使集 以下略之

京

④重方

望月

編集

毛吹草
浮世長刀
乳母
七子草
懐子
大井川
時世草
海地河心
佐兵中

的傳

安原正章入道

嫡子

元次安原

弘永

見賢

言永

以下略

③ 貞室

編集

元和頃平年六十四
玉海集
而句自注
氷室言
片言
乾重次作分

可頼

貞恕

惠佐

室次

以下略

又 的傳

哥道二華堂門第十リ
山本無外軒入道

④ 西武

延宝頃平年七十三

正在

小原

編集

鷹統波
改金袋
はのり子

京 正伯

隨流

編永代記

以下略

御歌学所

⑤ 季吟

北村拾穂軒再昌院法印
本土江列北村

編集

花千句
いさご
十金集

宝永二酉六月
十五卒歿八十二
有墳池、八夕
正慶寺

哥玄

八代集抄
源氏物語抄
大和物語抄
百人一首抄
其外等

京 元隣
同 可全
同 則常

山岳

大村

伊豆

湖春 父季吟同時被召出
元祿十七年正月十日卒
正立 住新玉津島

御歌字所

六 人之德 鷄冠井 又良徳下出
寛文頃 中羊ノ卒

崑山集 非階四十余年
土塵集 親灸

七 梅盛 高瀬佗心子
元祿頃卒老羊

口子孫子 ありき草 古後
茂徳集 山重石 山下石
梅子集 心仙 木玉集
後子集 敦子集 早柳集

京 良保 奥西
京 友三 奥西
大坂 如貞 井口
京 今富 鷄冠井
尾州 友我
以下略

京 安重 内海
日 倫員 藤村

日 道槃 佐木
日 信徳 伊東
以下略

京 一 雪 掠梨柳風菴
延宝頃卒

編集 深骨 茶抄所 雨わらるる
粉搦 只今之如 少く心也
作者之 心小袖 云月哉

京 重友
尾州 一和
以下略

京 安静 萩野似空軒
右同頃

編集 鄙談集 小の細布

首門 馬淵宗畔 末吉道節
端氏定室宮川正由
是為の川流武江子 依照

京 俊秀
日 宗英
日 重隆
日 似船 富尾
偏 苗代水

江都宗匠

五哲

安靜門

○ 德元 齊藤帆亭

寬永頃

住馬喰町二丁目

編集

初学抄

於若州卒

○ 未得 石田乾堂

編

五心集

住神田鍋丁町持屋鋪

調和

岸本壺駟軒

号土齊

編 是子之草

住吳服町

土齊滅後高才和葉

取焉

正徳五乙未十月十七日卒

享年八十有余

有墳筑地門跡地中

調和院道鑑士

德友

類

和英 壺祝舟

元貞

享保二酉二月四日卒
早有余谷不葬

水元 万治頃

濟春 昌雲軒

右日頃

編

安山集 庶務集
千白集

長男 未琢 石田良堂

居父ノ住所
在哥ノ達人ナリ

編

一子心ノ子

天和二戌三月廿日卒

享年七十有余

墳父同所

隆芳院未琢居士

○ 意深 菊川ト改

入門吉田意深醫道

埋木

住傳馬丁

好柳

壺井

住京橋

現 風堂

山崎月嘯軒

住神田

現 艷士

横田壺谷軒

編集 分外集

常陽

木戸

住京橋

後成根津社職
享保甲申卒

門人
未陌 接山氏
元祿頃 任中橋邊

不卜 岡村一柳軒
任堀江町

編 法き系
元祿四庚未四月九日卒
有平河山法恩寺墳

里風 叙氏
任三嶋丁

現 和推 堀尾敲柳堂
先師点印傳松曉林
和葉自和葉又
和推附屬

息 和全 堀尾
未宗匠

現 不角 立羽松月堂 号千翁 任个堀

編集七十五版焼失其後百人白三卷
法き系 同十卷 母息集
信き系 本角のあき系

現 婦 不扁 立羽安月堂

現 二男 壽角 立羽松千堂 凡澤集

三 玄札 高島氏 醫

寬永頃 任本町四目
編 十程千句

辣心

山夕 堀口

四 加友 荒木泰菴 醫

寬文頃 任兩替町
編 法き系

同頃勢州松坂より名あり
是は春陽軒加友き系

現 山夕 挑井鳴蛙井
始仙水き系

任久保町

現 仙水 挑井
未宗匠

友德

正友

勢州杉木勾當第一身
佐芝源助橋
延宝頃談林誹諧流布時
合躰田代松意而宗因荷擔

一峰

河曲田泉舍
号萬仙公羽
任神田

於本土勢州山田享保十
巳九月十五日卒
于時八十五秋

言水

池西氏
又季吟門云後任京

粮得

卜一 山州伏見
菊岡氏

卜入 梅原氏

寬文頃

門田氏法橋
任久保町

元祿初頃

牡丹花孫
五 卜 粮

半井法眼
御醫 始慶友卜云

父半井慶友是温野卜粮卜云
拜領屋鋪鉄炮洲明石町裏
寬文頃 在哥、名人
父子正慶友又卜粮卜云

男
卜仙 半井醫
未葉有于今

中興一流祖

任新大橋

挑音

松尾天、軒釣月堂
号芭蕉翁

本土伊賀上野士松尾藤七郎
菊岡隨性軒如幻導而入季吟
門正保元甲申生元祿七甲戌
十月十二日於大坂卒春秋五十一
葬江州栗津義仲寺
諸国墳

有江戸深川長慶寺
有伊賀上野万福寺
有京東山双林寺
有大坂道頓堀十日寺
有美濃大垣正覺寺
有肥前長崎南京寺
有奥州高館古城跡碑

今德門

一品

芳賀冥靈堂
号崑山翁

元信德門 始、京都
任兩替町

今德翁、崑山印附屬之
在世用之此印行方不知
宝永四亥四月卒
壽六十有余

編

万水入海 家傳
丁卯集 一菴重山
八宗懸隔

斧鉞

藤本羽仙存
任石町

享保初頃卒

有真州素折短尺塚

編集

さるもの
冬乃日 二十奇仙
二百歌

素堂 山口今日菴

始云信章又來雪トモ云

享保二申八月十五日卒

有墳谷中感應寺

似春

小西氏 住本町

後成三総州行徳社職

編 北之出らる

立室門

蝶子

貞宜

万治頃 住鍛冶橋

編 忠出子 物忘子

朋友集 たらき

松茸き いろき

江戸八百歌 何の友

正徳享保頃本御菊塚

同名アリ此門流ニマス

百人ノ名ヲカリタルノミ

現 貞陸

住品川

佐保介我、徒弟
今住川越

編 二葉子

秀和 大野炭瓢齋

号相水翁

正徳四申午八月卒

現 秀堂 大野

未宗匠

吟市

秋氏 大徳院弟子

安住院尊海和尚

本土江州 屋銀塘

天和二戌於江州卒

高弟又津見吟市受續

表徳御直糸非点者

無倫

志村拾葉軒

本土越後 住大錫町

享保八卯二月廿九日卒
有墳谷海山青松寺

尊明 服部氏

住本御

不入

立室門

幽山

高野丁、軒

住本町、河岸

元祿頃藤堂任只公三仕ア

改竹内爲入

於勢州久居平老羊

立室門

立志

高井松樂軒

寛永頃

住本町四丁目

編 樗木集

立宜

高井松雨軒
若手而卒

法名天實 硯奇居士 行年六十三

倫里 且立德葉軒 住石町

現 編 來川 且立 始古鈴

神叔 音木氏 住石町 元祿頃 神道

浮生 北藤銀塘居 迦樓羅園 住銀町 編 原藤倫 水秤集 多詠話

享保三丁酉正月辛巳春 有墳小日向金剛寺 芭蕉ノ系

其角 室井室晋齋 号晋子 住茅場町 編 影山 白兄才 蠹集 糸尾 萩尾 三上 祐尾 宝永四丙亥二月廿九日卒

有墳二本榎上行寺 法花宗 有墳深川長慶寺 門人立之

嵐雪 服部雪中菴

兼應三丙午生湯島稚名友米助云 天神宮釘鳥井二其名アリトソ 編 その袋 宝永四丙亥十月十三日卒 法宗 葬駒込常駿寺

立志 高井和階堂 始立諫云 住石町 編 宝永元甲申八月卒 高林院立志日乘 伊勢松塚加文門

子英 岩本氏 後止点著 住 始浅草 正徳ノ頃卒 後卒不

起波 清水独步菴 住堺町 現

現 貞佐 素岡桑ノ畔 始平沙云 編集 九品 住本材木町

秋色 女 其角点印附属 住小網町 編 其角点印附属 住小網町

堤亭 下邑氏 住佳吉町 編 其角点印附属 住小網町

現 一漁 鶴海釣月堂 居浅草 編 其角点印附属 住小網町

現 編 傘車 鶴海 住未宗匠

有墳深川長慶寺門人之
雪中菴不自玄峯居士

その女 女 おのり
本土勢州山田渡會氏女十リ
依テ忌ニ法体ヲ成ニ韃風頭ト
編 住深川

有深川天叢念佛堂墳

挑翁 天野太白堂吳竹軒
始挑隣ト云

本土伊賀上野芭蕉翁
古朋友十リ 居神田

享保巳亥十一月卒七十有余
葬浅中新光明寺

現 潭北 常盤百花莊

本土野州那須
編 汐水 女の月日
及古き一 〇〇〇
のふみ 民衆分量記
分量夜話

現 湖十 曾 水者菴

其角門人也先師点印
秋色ヨリ附屬ス依テ
此系ニ譜ス

現 粮 永機 曾

現 挑翁 瀬尾大練舎

始杜格ト云
元秀和門 住押塘

編 雨あがり 冬の月
ひのさき さるまじり

現 編 陽秋 瀬尾 未宗五

介我 佐保甘雨亭

始普船ト云
享保三戌六月十八日歳六十七
有墳浅中本願寺

現 編 穀我 佐保 不宗五

拳白 草壁氏

編 〇〇 端二百款
久祿ノ頃卒

立志 心保和敷才
始春水又立詠

編 雪の果 危のまじり
一厥中

享保九甲辰十一月昔
有浅中常福寺墳
立志二代
点印ハ野州宇都宮住
音山立鴨附屬

現 水國 雲津鶴隣ト
始晴星ト云

今沾州明也 住搦町
雖然立圃五代相續ノ
宗匠十キニテ系ハ譜茲

東潮

和田堵中子

号一甫

住西河岸

丹水

住深川

前句判者二同名アリ

編 荏柄千白 冬の本

元禄スエ二卒

吏登

梅井雪中菴

素秋

熊谷氏

住橋町

始李峴

住深川

右同時代

編 和竹声 或同珍

周竹

清水才松齋

住田町

先師点印附属

現 今更 步田十存菴

編 彦菊齋

住神田

白峰

三田風琴子

編 住神田

陰威

今村

住麴町

今菴 醫

現

當國

飛川乙兼亭

元盤谷門

住神田

現

舞山

帶金

始茂店

元才店門

住

風虎公

内藤左京亮義泰公御夏

非点者

御集

水のめいさ 伝をのりて 山々川

御嫡

露沾公

内藤下野守義英公御夏

非点者

遊園堂傍池亭

御集

有負

露沾公門

福田風琴子

編

言格

福田氏 醫

露言

始調也下云

元調和門

住南傳馬町

而路言

白堂

御表徳ノ兩字一字宛

露言沾徳二下

遠水

樋口氏

元禄四未四月十日卒年有餘

住五ヶ所

露沾公門

水間合歡堂

始沾葉卜云
任中橋

一字出棠集
竹花千句
日續
享保十一年六月廿日卒有餘
有墳平河山法恩寺本理院了德日到

現 破笠
今止点者

現 勢吉
水間
如羊未宗匠

露沾公門

菊岡崔下菴南仙將

現 沾涼
元一晶門
始南仙卜云
任神田

現 布仙
菊岡晴行舍
未宗匠

現 梅立
菊岡
未宗匠

日本及中以程記 日光名跡志 江戸藤子温故志

現 露沾公門
露牛 赤菰
始花友卜云
元湖十門

現

沾洲 貴志行斬奇
始民丁卜云

編

現 青條
貴志
未宗匠

現

成屋 長坂音苔礎
始仙拾卜云

現 耳谷 長島氏
享保十三平

音娥 鴛田六峯仙
住茅場町

現 百洲 江川擲山甫
始尹督卜云

元東潮門
享保十五酉卒

現 乾什 岩本千歳兒
始具丈卜云

現

音娥 前田二柳菴
始又梁卜云
後泰室卜改
住菜研堀

現 壺月 石川

現

沾山 内田桂坊
住淺草

現 常仙 志村孤鶴汀

紹純門

誹諧談林一流之祖

任大及天滿

宗因

西山一幽号西翁又梅翁云又梅下翁氏

元連歌師

宗春 連哥

延宝手中下武江而暫居弘談林一流

春倫 濱田

編集

そのり百韻 友以集 独以集 びるあゝ
たのまの石款 四人代作 十舎集 ともあやまゝあり
其外略

大坂

西鶴

二万堂 井原氏

一日二万三千句独吟しヨリ二万翁トモ云

元禄六酉秋卒歳五十二

編

大矢敷 とうり石谷 朋骨 抄中ノ石車

あまのこまね
あまのこまね

松意

思川草子談林軒

松水

杉本氏

編 虎溪集

始大坂 後江北ナヤ町居

平友二人談林風流布宗因荷擔

於龜戸天神宮回廊ニ
笠着誹諧之發起

盤谷

志水泉宇

現

尾谷

千足梅堂

住瀬戸物町

北蓮塘 住神田

大坂

才磨

推本舊德翁

始西九

現 前任江戶

大坂ノ門人略

佳風

豊島有紀堂 儒道

始才尾云

住ナカイ町

伊勢真光寺昌英門

景俊

一万治ノ頃

此末門不知

現 逸志

笠家半扇菴

住浅草

貞徳正統松永尺山門

現 貞山

相淵芦丸舎 湖月亭

現 貞賀

楠子

一淵堂

編

江戸名所集

〇古貴人 大略

日も暮ぬるや舟に舟をむせむ夕

岩城郡主

風虎子

花ももぎききれいさあつむら 炭俵

父居郡主
任口子

明石丸と云ふ舟に於りて浦ありて月乃舟あはせほのくや何し丸

明石郡主
松葉子

むさしむさし遊り遊むをて何し云々

田原郡主
風隣子

あまののこころいさよこころいさあまののこころいさよこころいさ

〇古人古老 大略 古風

白炭や焼ぬむしーの雪の枝 忠知

長き木を森ておがしむらゆら 未学

水よくくおとひの沈むこい 吟

この葉よりおのあふあふし 狩野氏
常信

〇延宝年中大坂宗因東部にいさる滝林滝道の流經

起きて一川とよあまの滝林のなあり樹なるれ 宗因

此のより梅のいと流林十百款巻改しその頃

いさ折る人木足きんふさる 雪柴

くぼらなやおよそて天の下 小沢氏
尺

はらむ乃むしーいさむら 調和門
三輪氏
鉄

おとおとハそのあまのいさるて

〇元禄年中ハ正凡作ハ飯其頃より享保より大略

備きーさのあまや秋後鶴 調和門
金獅

石ふぬ思ふの雨をまら 和菜

中にくの鶴舟あはるー五月間 幽蘭

もこみかみか子つらつら着の葉
 杉の書行のひらひらなる一會外
 妻を新海子舟の木の林を如き
 神の木の木のひらひらや玉柳
 蟹もかきよまなく沖の汐下
 勤ことたれ岩持のや星乃床
 こよませし人の志を變つ古柳
 そよこ子汲物もなきなきの如
 箕子こころ意にそらく海乃枕
 物言ひ推の實鳴るる音の如
 このまき月のみまき音のまき音

芭蕉門 嵐蘭
日 在色
日 積風
日 楓子
日 仙花
日 曾良
日 岩泉
日 利牛
日 孤屋
露言門 干竿
似春門歌 專吟

白如やうらうらとる雪の人
 タノ海舟大進柳よるる帯
 太信。歩死の月や浦ちより
 勅学の志下つこよむおとよ
 その海八行忘しそら凡好の炭
 舟の飛や舟後よかゆる通祖神
 子まの鳴り方や留まなる海士一
 幕洗小川も乃頂や軒し
 馬の如き宿り日だけぬ枕把の花
 中一たいいお丸の指乃海へん如
 尾寺のまある海まゝ死海へん如

一品門 風曝
日 虚堂
日 琴藏
日 銀葉
其門 岩翁
日 朝叟
日 横儿
日 序合
日 古礎
日 栢十
日 氷花

亭の夜とて一編の月影
日雷堂 百里

耳かきよも御いなる花弁本
天寺道門 白雲

兼の経ひりある柳の如
不卜門 琴風

如き紙をさくや出さや沙千草
中立志門 出紫

飛鳥も厄姑むしやまの月
未立志門 兔睡堂 立和

日にやきていふ笑ひさくふはる
沾徳門 子葉

地中く杜々母乃名の恨の如
日 又魚

雲水乃るもいふ人物ほくさ
日 徳純

夢さる人々際限なく一途の書よのま
日 雲

あふふと拾ひす一牛姑毛一節

あふふと拾ひす一牛姑毛一節

トテ五 一書ナリ スカフマ

Handwritten text in vertical columns, likely in Chinese or Japanese characters, on aged, stained paper. The text is arranged in several columns, with some characters appearing to be in seal script or a similar traditional style. The paper shows signs of wear, including foxing and discoloration.